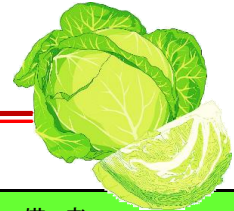




サンビオティック農業で大豊作！

葉菜類 栽培基準



キャベツ・白菜・ブロッコリー・カリフラワー

時期	ステージ	商品名	10a施用量・倍率	施用方法	備考
7～8月	土づくり	有機石灰等 (苦土石灰)	100～200kg	土壌混和	土壌分析に基づいてpHの調整、石灰、苦土などの施用をしておきます。特に収量と品質を上げるためには、カルシウム(石灰)は重要なため、省略しない。根こぶ病発生圃場では、転炉スラグを使用し、pH7.0程度まで矯正します。
		完熟堆肥	1～2トン	土壌混和	牛糞堆肥なら2～3トン程度、発酵鶏糞や豚糞堆肥の場合は1～2トン程度にします。特にキャベツ、白菜は、窒素要求量が高いので、一般野菜より多めに使用します。また、地力を高めておくため、定植の1か月前には施用し、混和しておきます。
		菌力アップ	5リットル	散布(灌水)	堆肥と一緒に菌力アップをまんべんなく散布し、1か月前に土壌混和し、1～2回浅くロータリをかけます。葉物野菜は、地力窒素に加え、水分保持と通気性が非常に重要で、土づくりで微生物を増やし、団粒化した土壌をつくります。
8月	育苗	菌力アップ コーソゴールド タスケルプ！	100倍希釈 500倍希釈 2000倍希釈	頭上灌水 7日おき×4回	立枯れ予防、発根促進、根鉢形成、健苗育成、徒長抑制のため、左記の液肥等を灌水します。セル苗・プラグ苗など土量が非常に少ない育苗方式では、菌力アップは500～700倍希釈にします。
		(高温・乾燥対策) イーオス タスケルプ！	200～300倍希釈 2000倍希釈	頭上灌水、または葉面散布(随時)	夏場の高温・乾燥に対応するため、猛暑日の前日夕方～当日早朝に、左記の灌水または葉面散布を実施します。2～3日程度、高温・乾燥に対するストレスが和らぎます。特に、雨や曇天が続いた後の猛暑日に注意します。
9～10月	元肥	有機百倍 鈴成 (ほう砂)	20kg×10袋 20kg×5～10袋 1kg)	土壌混和	定植の1～2週間前に元肥混和し、時間をかけて土づくりを行うことが大事です。リン酸過剰圃場では、ネコブ病を助長する傾向がありますので、鈴成の施用及び、豚糞堆肥、鶏糞堆肥の施用を控えます。アブラナ科は、ほう素が必要ですから、ほう砂(市販)1kg/10aを万遍なく、散布します。キャベツ、白菜では鈴成5袋、ブロッコリー、カリフラワーでは鈴成10袋を施用します。花蕾を収穫するのでリン酸が必要になります。また、鈴成がカルシウム欠乏を予防します。
	定植後	菌力アップ 糖力アップ 本気Ca(マジカル)	100倍希釈 200倍希釈 1000倍希釈	株元灌水 (定植～活着) 2日に1回 (活着後) 7日おき×4回	定植後には、活着促進と立枯れの予防、初期生育に大変重要な作業です。2～3日に1回灌水します。定植時のどぶ漬けもお勧めです。活着後も、乾燥時など、出来るだけ左記灌水作業を行い初期生育を旺盛にします。
10月	追肥	有機百倍 硫酸加里肥料、又は (ケイ酸カリ肥料)	20kg×3～5袋 10kg (40kg)	土壌散布	結球開始からは追肥の効果はないため、生育を見て結球開始までに追肥を終わらせます。マルチ被覆の場合は、追肥分も元肥と合わせて施用しておきます。生育が悪い場合は追肥と合わせて、菌力アップ100倍希釈と特濃糖力アップ200倍希釈、タスケルプ！2000倍希釈を、数回灌水すると良いです。ケイ酸カリは、酸性圃場(pH5.0～6.0)の場合は効果的ですが、通常(pH6.5～7.0)では硫酸カリを使用します。ブロッコリーは、カリ過剰で花蕾黒変症を誘発しやすいため、堆肥の量が多かった場合などは、カリ肥料を減らすか、使用を控えます。地温が12℃以下(低温)で、肥料の効きが悪そうな場合は、追肥には有機百倍より硝酸カルシウム肥料が良いと思います。
11～2月	結球開始～	本気Ca(マジカル) 本格にがり	1000～2000倍希釈 500倍希釈	葉面散布 7日おき	カルシウム欠乏(チツバーン)が出やすい場合は、予防のため本気Ca(マジカル)を散布します。なお、特に窒素量(アンモニア)が多い場合は、カルシウム欠乏が出やすくなります。カルシウム欠乏対策は、あらかじめ土づくりで対策しておくのが基本です。過剰なチツソ施用に注意し、カルシウム、マグネシウム、カリのバランスが重要です。また、カルシウムの吸収の為、適度な水分と換気(風通し)が重要です。次の手として、本気Caや本格にがりを葉面散布します。農薬の混用可ですので、防除の時に一緒にやると便利です。ただし、本気Caにより汚れる場合がありますので、初めての場合は、より薄めからお試ください。

※土壌診断を実施し、データに基づいて施肥設計を行うことをお勧めします。品種や時期、土壌条件等によって、施肥量は加減してください。

※キャベツなどのアブラナ科は、ホウ素の要求量が多く、堆肥での補給が基本となります。しかし、堆肥には通常現物1トン当たり10g程度のホウ素しか含まれておらず、キャベツの吸収量は40g/a程度とされています。特にチツソの施肥量が多い場合は、カルシウム欠乏とホウ素欠乏の可能性は高く、ホウ素欠乏pH6.5以上になるとさらにリスクが増大します。

※連作圃場や、ホウ素欠の心配がある場合は、ホウ酸塩肥料1kg/10aや、FTE資材3～4kg/10aを砂などと混ぜて圃場に均一に散布し、混和しておきます。ネコブ病やベト病、菌核病の予防のため、水分保持と通気性が重要で、土づくりで微生物を増やし、団粒化した土壌を作ります。

※ネコブ病が心配される圃場では、有機石灰(かき殻石灰、サンゴ化石など)、または転炉スラグ肥料を植穴に50g程度入れ、軽く混和してから植え付けると良いです。